

## 熊本地震が教えた鹿児島県の観光を考える

使用者委員 伊地知 司

容赦なく太陽が照りつけ、大地からは陽炎がユラユラと立ち上り、うだるような暑さが続いております。昔の人は軒先に風鈴を下げて音で涼を感じ、窓によしずを掛けて日差しを避け、豊かな感性で自然の中に涼を見つける納涼文化がありました。

春の行楽シーズンを迎えて間もなく、思いもよらぬ考えもしない4月14日、熊本地方でマグニチュード6.5、16日には同じく7.3の地震が起きました。甚大なる被害、尊い命が未来を絶たれ、大変なる現実が起きました。

今回の震災により、博多駅と鹿児島中央駅を結ぶ「九州新幹線」は13日間、又「九州自動車道」は15日間不通となり、2つの主要幹線のストップは地域経済に大きな痛手となりました。

特に鹿児島県においては、27年8月の「桜島噴火レベルが4（避難準備）」に引き上げられた際、観光客が訪れる場所は規制地域外にあるにも拘わらず、風評被害に苦しんでいる最中のダブルパンチとなりました。

一般団体は勿論の事、修学旅行への影響も大きく、余震が続いている事や関西からの新幹線集約列車が運行出来ない事もあり、延期もしくはキャンセルになっている事等があげられます。修学旅行については1回行き先が変わると再び戻ってくるのにかなりの時間が必要となります。

7月に入り新幹線の便数も元に戻り、九州道の工事による影響もだいぶ緩和されました。

2つの大動脈が復旧し、鹿児島へ観光客が来る事ができるアクセスは整いました。一般の旅行が低迷している中で、特にメディアによる募集ツアーの集客状況の勢いが感じられません。心理的に鹿児島への旅行が敬遠されている事から思い切った商品企画、価格などもカンフル剤となります。

6月に鹿児島県が「お得旅事業」として1億、7月には国による「ふっこう割」政策が発表されたものの、果たして十分な対応なのか疑問もあります。

我々に今できることは、今回の地震による鹿児島の自然災害は殆んどなかった事実を正確に伝え消費者への不安感を取り除く事です。

今ここで、鹿児島も元気、九州も元気、大丈夫と訴えて、暑い夏ではありますが、癒される自然と元気のわく食材もあり人を迎え、人の心に感動を与え、ときめかせる宝があります。

うだるような暑さの中、白熊でも食べて、温泉に入り、宿で焼酎片手にさつま揚げで語り、訪ねて良かったと感じる心をお助けしたいと考えます。

マスメディアの活用、SNSによる発信もその大きな手段かと思えます。

関西、関東に出向きますと「鹿児島の人は地元の宣伝が下手だ」とよく耳に致します。

「食、自然、イベント」を官民一体となって汗をかき、改めていかに売り込んでいく事ができるかが、今回熊本地震によって得た「鹿児島の観光」事業発展への大きな鍵となる事は間違いないと考えます。